

# 寄せ場反乱は 拡大する

—73” 冬の陣の  
勝利に向けて—

山谷現場闘争委員会  
新井技研を追放する会

# 寄せ場反乱は 拡大する

七二年五月二十八日。この日は下層労働者の闘いにとって記念すべき日である。それはなぜか。流動的下層労働者の密集居住区、その代表的存在たる釜ヶ崎で、本格的な暴動闘争がこの日開始されたからである。過去の暴動は直接ポリ公に向かい、鎮圧され寄せ場の力関係を变えることはなかった。しかし、五月二十八日以降の釜ヶ崎暴動は、労働者の生殺与奪権を握っている暴力団 || 手配師集団の武装襲撃を労働者自身が自衛武装でやり返し、介入してきた国営暴力団との暴動闘争へと発展していった。五・六月釜ヶ崎暴動は、これまで不動と思われた手配師による日常的な支配を労働者自身の力で転覆したのである。// やられたらやり返せ! // という革命的なスローガンは、この釜ヶ崎暴動が生み出した、労働者の大衆的なスローガンであり、釜ヶ崎労働者の戦闘組織 || 釜共闘もこの中から創出されたものである。この五・六月釜ヶ崎の烽火は、今燎原の火の如く、確実に、全国の寄せ場に波及しつつある。七二年秋―冬の山谷の闘い、七三年九月山谷暴動、七月寿暴動、馬場での新井技建追放闘争。下層労働者のこの怒と闘いの進撃に、敵はジリジリ後退し、後退しつつより巧妙で狂暴な弾圧政治をもってまきかえそうとしている。敵は、どんな弾圧をやっても許されるのだという世論づくりを行いながら、釜共闘。現闘委壊滅作戦を展開している。それ故に、今こそ、下層労働者の闘いの道理を普遍化することは重要な意味をもってきている。寄せ場とは何か? 手配師とは何か? そして下層労働者の闘争の内実とは何か?

- 寄せ場と手配師... 2
- 新井技建追放の  
斗い起こる... 7
- 9.11 山谷暴動... 12
- 寄せ場反乱は  
拡大する... 18
- 資料ピラ... 20
- 73年山谷冬の陣  
越冬斗争の呼びかけ... 34
- 俺たちのいのちは  
俺たちで守ろう... 36
- 冬に向け、更なる  
斗いと支援を... 39

# 寄せ場と手配師

## 寄せ場とは何か

山谷・釜ヶ崎に代表される寄せ場とは何か？それは流動的下層労働者の寄せ場、無産労働者の寄せ場である。寄せ場とは労働力以外に売るものをもたぬプロレタリア（無産者）が、日々の仕事をもとめ、労働力の買い手をもとめ、労働力の売り手として傭集する密集した労働力商品市場であり、全産業規模から見れば、個別資本に長期的に従属する必要はないが日々必要不可欠とされる代行可能な流動的基幹労働力——すなわち建設・港湾・運輸・鉄鋼等基幹産業の現役労働者軍の主力を構成している労働力の供給基地であり、労働者階級総体の資本主義的生命過程から見れば、過剰労働力の墓場、資本そのものに商品価値を奪われた労働力の終着駅である。

寄せ場は、山谷・釜ヶ崎だけではない。北は札幌から山谷―馬場―高橋―川崎―横浜―町名古屋―東京―釜ヶ崎―神戸―新開地―広島―北九州と全国の主要な都市には、必ずといっていいほど職安附近に現金・飯場出張の雇用形態にからめとられるべく労働者を集める寄せ場が存在し、全国に無数に点在する飯場もまた一種の寄せ場として、労働力供給基地の役割を果している。

昨日釜ヶ崎にいた労働者は、今日山谷から仕事にいき、明日はどこかの飯場にいく。だから釜ヶ崎の労働者は釜ヶ崎の労働者ではない。山谷・釜ヶ崎とは流動的労働者の代表的な寄せ場であり、小さな山谷、小さな釜ヶ崎は全国に存在する。無数の飯場もまた小さな山谷・釜ヶ崎であり、山谷・釜ヶ崎とは大規模な飯場、一つの街にまで成長した飯場だ。山谷・釜ヶ崎は全国を流動する流動的労働者の中継基地——全国の寄せ場。飯場をつなぐ結節点なのである。

寄せ場は、労働者の落す現金めあてに寄生する地域資本を呼び寄せ、密集した収奪システムを形成する。ドヤ街を中心として酒屋・飲食店、パチンコ等の遊戯施設が効率よく労働者が稼いできた現金をまき上げ、かすめとり、ポツタくる。

寄せ場に寄生する最悪のダニは、いりまでもなくピンハネ手配師集団であり、バックを開帳し、手配師をバックアップし、喫茶店・遊戯施設等を握っている暴力団である。

## 手配師とは何者か

では労働者の労働に寄生し、労働者の生活を支配している手配師とは何ものか？

手配師とは、まず文字どおり「人夫の手配をやっているもの」といえる。業者は明日の仕事の段取りを考えて、必要な人数を手配するよう手配師に注文する。例えば「明日、一〇人おれのところへ手配してくれ」というように。そうすると、翌朝、手配師は寄せ場に姿を現わし、業者の注文に基づいて労働者を物色し、頭数をそろえて業者にひき渡す。

すなわち、手配師とは、労働者を常時保有しておらず仕事を供給する企業と企業から自由な流動的労働者との間にあって、企業に労働力を供給する仲介的役割を果している存在、そういった二実体間において媒介的機能が自立化し、実体化したものの、「労働力供給業」を営む者といえる。

労働力供給請負としての手配師にもいくつかの形態がある。寄せ場においては、労働力供給請負としての、暴力をもってする収奪が可能であるが故に、暴力団が寄生し、手配権としてのシマができる。したがって、寄せ場は多くの場合、暴力団のシマであるか、あるいはいくつかの暴力団のシマに分割されている。多くの手配師は、他の手配師から手配権を防衛し、暴力的収奪に対する労働者の反撃から身を守るため、強力な暴力装置を必要とし、手配師どうしで徒党を組み、暴力団の系列に入っている。こうした暴力装置を背景に、シマ荒しの手配師には暴力的制裁を加え上納金を強制し、「弱い」労働者に対してはあくどいピンハネを行う。暴力団系手配師集団は業者から労働力供給を、ポリ公から労働者の暴力支配を請負う。

寄せ場における闘争は、先ず何よりも、この暴力団系手配師集団との闘いである。釜ヶ崎における対鈴木組闘争、対協力会闘争、対横山組闘争がそうであったし、山谷における林等夜の手配師集団と

の闘争もそうである。

労働力供給請負の中で企業の組織性もち建設業としての体裁をとったものに人夫出し業者がある。人夫出し業者とは「〇〇建設」「××工務店」という看板を出しているものもあるが、工事請負ではなく単純な労働力供給請負に若干毛のはえたものことである。人夫出し業者に所属する手配師は「会社労務課の一社員」として寄せ場に登場する。彼は直接業者から注文を受けとるのではなく、他の「社員」がとってきた注文を聞いて手配する。人夫出し業者には、事務所があり、社長があり、事務員があり、労務職員（＝手配師）、現場職員（＝棒心・世話役）等がいて労働力供給請負の分業体制ができていいる。

## 高田馬場

超高層ビルが次々と建設中の副都心―新宿から山手線で次の駅―新大久保と二つ目の駅―高田馬場との中間に線路に接して通称馬場の寄せ場がある。

「寄せ場がある」といっても、昼間そこは何の変哲もない普通の公園にすぎない。朝六時頃から労働者や手配師や業者のバスが集まり始め、立食い食堂の屋台が出て、歩道上では古着屋が風呂敷を広げ、七時頃を境に寄せ場の振幅は最大値に達し、八時を過ぎると再び市民住宅街の中の普通の公園にもどる。

馬場の寄せ場にも職安があり、五百人程度の日雇労働者が登録しているが、圧倒的多数の労働者は違法私設職安―手配師を通じて就

勞している。いわゆる立ちん坊である。大きな理由は、職安は手続が煩雜であること、デズラが安いことにある。

馬場の寄せ場から就労する立ちん坊の中には、年のいった労働者もいるが、若い立ちん坊が目立つ。中には学生もいるし、元学生風、フーテン風の立ちん坊もいる。その服装もまちまちで、ズックをはいたものから、タビをはいた土方風、七分をはいたトビ風、皮靴をはいたサラリーマン風まである。

その生存形態から言えば、日雇労働のみで生きている生粋の日雇、他に本職をもち時々日雇をするバイトの日雇、失業し他の職につくまで一時的に日雇をやっている臨時の日雇等であり、馬場は山谷・釜ヶ崎という本格的寄せ場に比べれば「市民社会」的性格が強く、明確な労働者街を形成してはいない。「市民社会」的生存様式から山谷・釜ヶ崎的生存様式へ中間的的位置にあるといえる。

しかし、だからといって、馬場の寄せ場に依存している業者が、山谷・釜ヶ崎に依存している業者に比べて「良心」的な訳ではない。新井技建を筆頭にして暴力ケタオチ業者はわんざといる。条件違反、賃金未払、暴行事件、強制労働はしょっちゅうある。

そういった抑圧状態に反抗する労働者の怒りを封殺するものとして、暴力団系手配師集団がらみをかきかしてをり、「弱い」業者から「上納金」というかたちで金をまき上げ、その負担を労働者へしわよせする構造をつくっている。

デズラは片付でケタオチ三五〇〇円から四〇〇〇円・四五〇〇円がポピュラーで、モグリで五〇〇〇円位まである。(七三年夏頃)職種も片付、雑工、根切り、コンクリ、トビの手元、解体等、建築関係はほぼ出そろっている。

### 日本帝国主義と朝鮮人労働者強制連行

馬場の日雇寄せ場に隣接して、山手線をはさみ、朝鮮人密集居住区がある。国鉄所有地を「不法占拠」してある朝鮮人スラム街である。

日雇労働者の寄せ場と被差別階層居住区との因縁は深い。山谷に隣接する浅草一帯は被差別部落であり、日暮里・本木町一帯は朝鮮人居住区であり、吉原トルコ街は昔の遊郭吉原である。釜ヶ崎には生野・浪速に朝鮮人居住区があり、大正区北恩加には沖繩人居住区、また西成部落、飛田売春街が隣接している。

日雇寄せ場と朝鮮人居住区との関係をとり出してみても、その根は深く日本帝国主義の歴史的存立基盤に喰い込んでいる。

朝鮮人密集居住区は、皇軍を手配師強盗集団とする朝鮮人強制連行の歴史的事実を無視しては存在し得ないし、朝鮮人強制連行は、朝鮮人農民の朝鮮人労働者としての強制連行であったことは強調されねばならぬ。

この強制連行は単に日帝の思いつきとしてあったのではない。日帝の国家意志による計画的犯行であり、日帝の本質を表わすものとしてあったのである。

日帝が実現せんとした「大東亜共栄圏」を我々は次のように読みかえることができる。すなわち、それは、日帝本國への富と底辺労働力の集中のための「手配師体制」である、と。

朝鮮人農民の底辺労働力としての日帝本國への流入は、

朝鮮の植民地化(土地収奪、日本人労働官僚の侵入)によって、一九一〇年代から、日本人手配師を介して行われ、内地に送り込まれた朝鮮人農民は、日雇労働者として各地での道路・鉄道・河川工事等の肉体重労働部門に配置される。しかも賃金は日本人の半分か、それを少し上まわる程度であった。

一九二〇年代には、今の山谷近辺、本所から浅草にかけて千人近い朝鮮人日雇労働者がいたと言われ、その生活実態は、

「まして鮮人のアブレと来ては、内地人よりも一層哀れなもので土工手伝い人夫が一日稼いで六〇銭位だが、それでも木賃ホテルに宿をふせげるのに、一〇日も二〇日もアブレて飯代もなく、湯銭もなく、ニシメた様をメリヤスに半てん一枚でうづくまっっているのが多い。」という有様だった。

当初、私設手配師によって自然成長的に行われていた底辺労働力の供給体制は、内地の底辺労働力不足の深刻化と侵略戦争体制の構築に従って、大手独占資本の強力な要請に基づき、国家の政策体系に組み込まれ、より計画的、組織的なものとなっていく。

その過程は、総力戦段階での帝国主義の植民地体制における労働力配置がいかなるものであるかを語っている。日本人農民・労働者のある部分は、朝鮮半島や満洲における植民地で現地人を手配・動員・監視する労働力手配官

僚として外へ向かって動員、

他の部分は、植民地支配・侵略の暴力装置(皇軍)として同じく外へ向かって動員、

植民地現住民を、日本人農民・労働者の外への動員による穴うめとして、現地日本人手配官僚と皇軍をつかって内地へ動員、内地では、基幹肉体労働部門に配置し、日本人労働官僚の下で、無償奴隷労働を強制し、

この総体を、国家総動員体制として軍部・国家官僚が、手配・動員・監視するという構造であった。

総力戦とは労働力の総動員体制を意味し、「鮮人労働者」「華人労働者」の強制連行はその一環として行われたのである。

ところで、軍部現場での日本人労働官僚による「鮮人労働者」「華人労働者」の虐殺・酷使はなぜ行われたのか。当然、直接手を下した日本人労働官僚は断罪されねばならぬ。しかし、それも単に個人の責任にとどめておく限り、下級労働官僚を生けにえとして切り捨て自からの責任を回避してきた企業そして日帝を断罪し切ることではできない。

日本人下級労働官僚をして、虐殺・酷使を行わしめた体制とはいかなる体制であり、その体制が現在の日本帝国主義と無縁ではないこと、このことが追及されねばならぬ。それは単に、日本人の朝鮮人・中国人に対する差別意識では説明のつかない問題である。

軍部・国家官僚による戦時増産のための苛酷な生産ノル

マの下令、生産性の低さをカバーするための人海戦術（それを可能とする手配師体制）、労働力再生産費切り下げのための労働力使い捨て体制、軍隊的ヒエラルキー下での下級官僚の個人的戦果獲得のための暴走、労働者の反抗をおさえるための見せしめとしての暴力的制裁、こういった日本帝国主義の体制の問題であり、民族的差別とはこういう体制が要求し、日本人の意識に植えつけてきたものであり、現在の日帝が分断支配の政策として継承しているものであり、したがってその根底には、労働官僚対労働者の階級対立が刻印されているということ、

現在の釜ヶ崎では、手配師・下請業者の八〇%近くが在日朝鮮人であるといわれるように、転倒され複層化されたかたちで、労働官僚対労働者の階級対立と民族問題がからみあいもつれあっているということ、

したがって、民族問題・差別問題はその在り方、その解決の仕方、「市民社会」と被差別階層が死ぬか生きるかという具体的利害で分断支配対立せざらされている「下層社会」では全く異質であるということ、

それ故に、「下層社会」においては最下層の階級的利害に立ち、具体的利害を具体的に解決し、共通の敵に向かって分断支配をはねのけていくことのできない、「総ザンゲ論」や「言語論批判」は無力であるよりも反動的なのである。

七〇年代の今日、日帝は再び朝鮮人「強制連行」を行わんとしている。我々日雇労働者はこれを見過すことはできない。

# 新井技建追放の闘い起る

## 馬場で新井がやられた！

七月二〇日、高田馬場の寄せ場で手配を行っていた建設業者「新井技建が労働者の一群に襲われ、マイタビハズ二台が破壊された。

「新井技建」は山谷から労働者に追放されて逃げのび、この馬場の寄せ場を支配し他の業者にケタオチの協定賃金を押しつけていた礼つきの暴力団業者である。「新井」は警視庁組織暴力取締本部もマークしている松友会（極東系）に属し、表向きは株式会社を名乗っているが、中味は暴力団そのものであり常備とは組員であり、社長とは組長と思つて間違いない。川崎・横浜など全関東の寄せ場に根をはり、二年前の冬、練馬区北大泉の飯場で脱走しようとした労働者を常備四人がリンチして殺し摘発され、また同じ頃、社長新井国弘は、私設職安の開設とピンハネによる三億四千万円の脱税容疑で逮捕され起訴が決定している。しかし、その後も「新井技建」では労働者への虐待、強制労働をやめず、関東の寄せ場労働者からは「新井だけは行くな」と恐れられ、憎まれていたが、元請からは事業成績良好と信頼され、現在では、鹿島建設、清水建設、三井建設

などの大手建設業者の現場の多くに下請として喰い込んでいる。

七月二〇日から始まった新井技建追放の闘いも果して、鹿島建設が元請である新宿三井ビル建設現場で起った暴行事件が発端なのである。

七月十九日、日本一高い新宿三井ビルの建設現場で、馬場の日雇労働者に対する暴行事件が起った。労働条件が異なったことに文句を言った労働者をバールをふり上げてオドシ強制的に働らかせたあげく、ケガをしても医者に見せず、逆にあるうことか「チンタラするな」と殴りつけたのである。暴行を加えたのは、下請新井技建の監督高橋である。元請は三井・鹿島建設共同企業体である。

七月二十一日朝、山谷で新井が労働者に暴行を加えたことを情宣約五〇名の労働者が新宿三井ビルに押しかける。「新井のカントク高橋を出せ！」「謝罪せよ！」「団交に応ぜよ！」という要求に、鹿島・三井建設は一切答えず、ポリ公一〇〇名を呼び、門前から暴力的に排除、中央公園まで連行して、二時間余りもロックイン。全く何の根拠もないムチャクチャなポリ公の介入である。下請新井には暴力団がついているが、元請鹿島・三井には、国営暴力団「ポリ公がついている」といふ訳だ。

## 新井技建の飯場

西武池袋線でいけば大泉学園下車、練馬区北大泉の石神井川に接して、新井技建の飯場がある。二年前、労働者が新井の極道トンコ番に殴り殺されたという飯場だ。新聞記事では「泥棒とまちがえて殴り殺した」となっているが、ブレハブが少なくとも七棟はあろうと思われる、まさに刑務所としか形容しようのないこの巨大な要塞に誰が泥棒などに入ろう。新井のエイ手口としてよくこんなことを耳にする。現金（日雇）で仕事に行つたところが、暴力的なドウカツによって強制的に飯場契約書を書かされ、逃げようとしても四六時中こわいお兄さん達が監視していて、すこしでも逃げるふりをするるとリンチにあい、あげくは賃金も払ってもらえずにほっぽり出される。

新井の飯場の中で行なわれていることがそういうことならば、何故刑務所のような印象を与え、高いヘイで囲つてあるのかも理解できるといふものだ。

新井の飯場とは、今もって生き続けているタコ部屋であり、強制労働キャンプであり、労働監獄なのだ。

## 鹿島建設は人肉を喰って成長した

鹿島建設と政府権力とのつながりは深い。そもそも、国家権力の癒着を抜きにして、超高層ビルを手がけんとする今日の鹿島建設はありえない。

一九四五年六月三〇日、秋田県花岡鉦山でおこつた花岡暴動は、鹿島建設が今日どんなに紳士づらしようと、ひと皮めくれば、人肉を喰って肥え太つてきたことを、消しようのない歴史的事実として刻印している。

その日、花岡鉦山の河川改修工事を請け負っていた鹿島組（現在の鹿島建設）の現場で中国本土から強制連行されてきた八〇〇名の中国人労働者が、請負工事を急いで、人間の生命を虫ケラほどにも考えない鹿島組の圧制と奴隷労働に反抗して、暴動を起こしたのである。

中国人労働者たちは、それまでに百四十人もの仲間を強制労働と虐待、リンチによって殺した鹿島組の監視員三名と、中国人裏切りもの一名を殺して、蜂起して、タコ部屋中山寮を脱出、山にこもりつるはし、スコップ、石をもって一千余名の武装憲兵、警察隊と五〇名近い犠牲者を出しながら死闘をくり広げ、ついに生き残つた全員逮捕されてしまったのである。

この花岡暴動は、当時の支配層を恐怖のドン底におとし入れ、やつらは何日も協議を重ね、全国のタコ部屋事業所への波及をくいこめることに腐心した。というのは、中国人労働者に強制労働させて

いた全国一〇七のタコ部屋のうち実に九一のタコ部屋で中国人労働者が敢然と闘いに決起していたのである。鹿島組は、花岡鉦山のほか、北海道玉川鉦山、長野県木曾御岳等、四ヶ所の大土木工事を請け負い、千八百八十八人の中国人労働者を強制労働させ、五二一人を殺しているのである。

しかも、鹿島組は他の軍事土木業者と共謀し、「華人労働者」を使つたためにこつこつした損害補償の名目で、政府から五百四十五万円をぶんどり、味をしめたやつらは、更に追加補償三千二百万円、融資六千二百六万円（二十年当時）を火事場ドロボーと同じ手口でかすめどつていたのである。このとき、鹿島に組した中には、大成建設、間組、熊谷組、竹中工務店、地崎組、鉄建建設等、今日建設業界を独占し、紳士づらをしているものばかりである。

「昔タコ部屋、今大企業」とはよく言ったものだ。けれども今日タコ部屋がなくなつたわけではない。大手建設業者は、自分の手を汚さず、今度は下請業者にタコ部屋を経営させているにすぎない。鹿島建設と新井技建の癒着は、そのことをはっきりと示している。それ故、建設資本の下で働く労働者の運命は、今も昔も変わらない。強制連行され、全国のタコ部屋で労働を強制された中国人・朝鮮人労働者は、労働者階級の運命をその典型的な姿において浮きぼりにしているのだから、だからこそファシズムの幻映が敗戦で吹き飛んだ時、彼らの決起は、日本人民の決起をも呼び起こしたものである。北海道夕張炭鉦の闘いがそれである。

## 新井技建追放は 下層労働者の道理ある闘いだ！

高田馬場の寄せ場で始まつた新井技建追放の闘いは、やられつづけてきた怨みを、やった相手に真正面からぶつつけ返す闘いであつた。二年前の殺された仲間の怨みを晴らすまで、一切の妥協はありえなかつた。

七月二十三日、馬場の寄せ場で「新井技建を追放する会」山谷現闘委の労働者、「新井を全国の寄せ場から追放せよ！」と情宣活動を行う。ちようどその時、新井技建が二十人の鉄砲玉と二〇振の木刀、ゴルフ棒をもって待ちかまえていたことが発覚、「やるならやってみろ」寄せ場の労働者六百人は、あたりに散らばっていた棒切れを手に持ち、シリシリと対峙。労働者の予想以上の団結と不転の決意に恐怖したやつらは、手の平を返すように「話し合いをしよう」と笑顔をつくる。「木刀をもって何が話し合いだ」「十年早い」「殺られた仲間の怨みを晴らすまで、話し合いなどありえない」「寄せ場で手配させない」。こうして新井技建は、馬場から大衆の手によって追放された。「新井がやられた」という話は広がり、広がるにつれて「オレも新井でひどい目に会つた」という労働者が続々と名のり出てきた。

### 被害届け

酒井紀昭さん（三一才）昨年十一月下旬、山谷でアブレたため、馬場から新井の飯場に行く。満期に、デズラが契約通りではないことに文句を言つたら袋叩きにあい、ビールビンで殴られ、頭部

を八ハリもぬう大ケガをし、入院。退院後も頭が痛み、仕事にもいけず正月も公園で青カンせざるをえなかつた。

松田正男さん(二七才) 横浜寿町から昨年七月中旬、中区の建築現場飯場に行き、飯場のふんざりが悪いので帰るといったら、裏でリンチ、監督も見て見ぬふり。一週間起き上がれず。

今野一郎さん(四二才) 今年五月、千葉の飯場に行き、暴行を受けたためトンコ。未払二万二千円。

林田さん(二五才) 昨年一月二日、千葉の飯場に行く。五日まで仕事がなく、タバコもくれないので文句をいうと暴行をうける。夜中に脱走し明けがたやっと駅にたどりつく。

等々、過去二年間に新井で暴行傷害、賃金未払いなどの被害を受けた労働者は、現在までに明らかにしたもので十数名におよび、潜在的には、かなりの数にのぼると思われる。

### 新井技建は三里塚農民にも敵対した!

もう一つ新井技建の罪状を明らかにしなければならぬ。

一昨年九月十八日、三里塚第二次強制収用の際、テレビに注視する全国民の目前で、農民の生命も考えず放送塔を引き倒した張本人が他ならぬ新井技建であったということだ。当時、別の飯場にいた山谷労働者の一人が、この一部始終を目撃していたのである。

九・天東峰戦闘で腰をぬかした公団・ポリ公は、周辺の警備に重点をおき、地上物件が収用された後の放送塔収用は公団と業者だけとなり、バラシ屋新井技建は、「オレが責任をもつ。ひき殺しても

かまわん、突込め!」と、ブル、クレーンを収用地点に突入させ、通常、一挙に倒れる危険を防止するため、重心より上部に台付(ワイヤー)をかける基本作業をやらす、やつらはベース近くで切断された鉄骨に台付けをかけ、強引に引っぱったのである。放送塔はもんどりうって倒れ、大量の火炎ビンが衝撃で爆発、見張り小屋にいた農民は、瀕死の重傷を負ったのである。あわてた警察は現場から人を遠ざけ、その事実を闇に葬むることに狂奔したという。

新井技建は、先輩鹿島がボロもつけした手口を忠実に踏襲している。時の支配者の政策遂行を先兵として担い、反抗する労働者、農民を容赦なく暴力をもっておさえ込み、報償としてごほうびにあづかり肥え太ってゆく、この卑劣な手口を!

## 八日会と新井技建

新井技建が鹿島から学んだ手口にはもう一つ、悪徳同盟を組織するということがあった。その名を「八日会」というこの悪徳同盟は昨年十二月三日、山谷で労働者の積年の怨みが爆発し、暴力手配師が袋叩きにあったのにドギモをぬかした新井が、十二月八日山谷福祉センターに悪徳業者・暴力手配師を集め、まき返しを画策したことに端を発する。正式名称は「東京建設躯体工業協同組合」である。どんなに長つたらしい文字でカッコをつけようと、人夫出し業者の野合、中味は決まっている。業者全体の利潤の低下を妨ぐため、いかに共謀して労働者の自覚を妨げ、うらみをかまし、巻き返しを計り、闘いをおさえ込むか、これである。ピンハネによるあからさま

な収奪以外に資本を蓄積しようのない者同士、日雇労働者の自覚と決起が、他の何よりも自分達を戦りつさせるものであることをよく知っている。

大手建設業者の息のかかった、新井技建が中心となって結成されたこの「八日会」は毎月一回、板橋区熊野町の躯体会館に集まり、情報を交換し、ポリ公の知恵を授かりながら、労働者の闘いをおさえ、自らの支配の座を安定させるために、最も適切な暴力とブルジョア政治の行使の方法を謀議している。

### 資料 ① 東京山谷地区における過激な労働者の動き(抜スイ)

#### 東京建設躯体工業組合

◎吾々はいかに対処すべきか?

吾々は、労働者語録にかかれていような仕組みられたトラブルに先ず介入されないように努力しなくてはならない。

活動家たちとかかわりをもたない様になることが第一であるが彼らは執ように機会をとらえて吾々業者に問題をもちこんでくることは明白であります。そこで日雇い作業員を使用する時には、次の諸事項に留意しなければなりません。

- 1、労働者の採用時には、活動家及びそのシンパを絶対求人しないこと。
- 2、採用時に労働条件を明示し、これを守ることを。賃金、作業時間、作業内容等についてお互いに納得の上で採用し、この条件に違反しないこと。
- 3、話し合いで解決すること——問題を小さいうちに解決すること。

と。トラブルが発生した場合、お互いに感情的になることなく、冷静に話し合って解決すること。

#### 4、(略)

5、ささいなケガでも労災保険の手続きを行い、後日の紛争を防ぐこと。

6、賃金の支払いをテキバキすること。……

7、現場責任者(世話役)の教育が必要である。即ち従来のような作業面の指導だけでなく、これらの活動家たちによって引起こされる問題に対処できる能力が必要である。暴力は絶対に避けなければならない。……

8、もし、やむなくトラブルが生じたら、まず警察当局及び労働基準監督署へ届けて、その解決方法を相談すべきである。

9、彼らのベースにのせられてはならない。日時を決めて話し合いに山谷へ赴くなどをもってのほかで、決して団交にに応じてはならない。

10、問題は一企業の問題ではないので、簡単に金銭で解決してはならない。そのためにシンパが続々と増加して、益々解決を困難にしているのである。

#### ◎四七・十二・八 八日会決議

労働者との間に生じた問題がこじれた時には、共通の問題として協組では協力して対処する。

このような決議が出されたことは、協組の存在意義が大きく認識されたこととして大変喜ばしいことであります。

又、私共の業界の拠点として軀体会館が四八年初春に完成いたします。この問題との関係に大いに期待できるものと確信いたします。これからは、共に助け合つて、この難局をのり切ろうではありませんか！

幸い、十二月八日の日建連労働問題懇談会においても、理解あ

# 九・一一山谷暴動

## 悪徳同盟の失地回復策動始まる

新井技建追放の斗いは、山谷、馬場の手配師、業者の間に二つの傾向を生み出した。一つは「うちは新井とは一切関係ない」「八日会など知らない」等々、暴力業諸団同一視されることをきらうハト派の業者、手配師である。

もう一つの傾向は、今ふれた「八日会」の悪徳同盟であり、ケタオチ暴力業者が自らの孤立を防ぐため、スネに傷もつ同類をかき集めたものである。この部分は、決して自ら進んで自分達の座を譲り渡すことはしない。そうするには余りにふんどりかえりすぎたのだ。やつらはこれまでふみつけてきた労働者によつて実力でひき降され運命にある。

山谷パレス裏で手配していた林ら極東系手配師たちは、後者の悪

## 暴動一夜の手配師を圧倒！

九月十一日、山谷暴動が起る。山谷の労働者は遂にダニのような林ら極東系暴力飯場手配師に痛烈な打撃を与え、積年の恨みを晴らしたのである。

この日、パレン裏の路上で手配師が労働者に暴行をふるう。殴られた労働者が一歩もひかず、他の労働者が集まり始めるや、林の鉄砲玉四人が手配師を逃がす。「なぜ逃がした」「逃がして何が悪い」「お前も仲間だろう」「仲間だつたらどうだというのだ」ヤー公の居直りは労働者の噴激をかつた。労働者は群集戦から追撃戦へと転じながら、ヤー公中核部隊に痛烈な打撃を加えたのである。

手配師と労働者の斗いにおくれをとつたポリ公は、全都の機動隊を総動員して、封鎖線を築き、拡大を防止し鎮圧にかかつたが暴動は十三名の逮捕者を出しながら、五時間以上も続き、翌日の夜も又火はくすぶりつづけたのである。

山谷では、これまで、十三回に渡つて暴動が起つている。しかし、そのことごとくがマンモス交番に向かい鎮圧され、胃袋をにぎる手配師に向かつたことは一度もなかつた。手配師はそれ程深く労働者の生殺与奪の権限をにぎつていたのである。九・一一暴動はその手配師に向かい、ポリ公は一時つんぼさじきにおかれた。それはこれまでの暴動にないことであつた。

るお話しを頂いております。今後、元請会社でも協力会社に対して共通の問題として御指導頂くことになっております。

当分の間、労働慣行が正常なものとなるまで、吾々は種々困難に直面すること存じますが、協組員一致団結して対処いたしますしゅう。

徳同盟を選択した。やつらは、今度はオレたちの番だとばかりに、他のケタオチ手配師と体をすりよせ結束し始めたのである。というのも林らは、今年四月九日春斗勝利、暴力手配師追放をスローガンにデモをしていた組合労働者にパール、木刀で襲い、労働者のうらみをかつていたからである。

八月二十四日、林らの周辺に常時一組になつて動いていたヤー公鉄砲玉四人が労働者をつるし上げる。

八月二五日、馬場の寄せ場に新井技建がポリ公に守られながら徐々に手配を開始。

暴力団業者、手配師はこの頃から相互に連携をとりつつ、馬場、山谷地域で徐々に失地回復と牽制を狙つて労働者に威圧をかける。

九月九日、山谷玉姫公園で映画会。手配師、姿をかくす。手配師と労働者の緊張は増し、一触即発の状態。

九月一〇日、馬場で新井技建追放の情宣。新井の手配師は六時すぎに早々と退散。力関係は依然流動的。

## 半タコ飯場と右翼暴力団

九月十一日、山谷の労働者が暴動で叩きつぶしたのは飯場専門の夜の手配師であつた。やつらは、普の賃金の半額程度の条件であぶられて喰いつめた労働者を無理矢理半タコの飯場に送り込む。朝の手配師よりやつらがこの間しつこく労働者に敵対したのも半タコ飯場経営のうま味をみすみす捨てたくなかつたからである。大手建設業者も、自分の手を汚さず、収奪せんがため下請業者による半タコ飯場の経営を温存させている。ポリ公も又しかりである。

今年八月、ケガをした労働者を労災にかけず飯場から追い出し、現在もなお労働者と対立が続いている白石工業も夜の山谷で手配を行つた林らと結束していた悪名高い業者であつた。(元請はまたしても鹿島建設である)寄せ場の手配師、業者はほとんど暴力団に手配料を上納するか、もしくは暴力団直轄の手配師、業者であるが、白石工業は右翼「青思会」とつながる暴力団義人党に属する。事務所には社旗のかわりに日の丸をデカデカと貼りつけ、安全、衛生の標語のかわりに教育勸語を掲げる右翼暴力団業者である。義人党は山谷、浅草、上野をシマに人夫供給業を主な資金源にする暴力団で、組長高橋義人は「青思会」の議長を兼ね、兄弟の信義、正義とともに右翼行動隊「日の丸青年隊」を内部に擁し、児玉善士夫を顧問にむかえている。

また、一九五九年に関東の暴力団、錦政会、松葉会、住吉会、義人党、東声会、北星会、日本国粋会を糾合した「関東会」なる連合



組織が結成されたが、その裏に西の山口組ともつながりをもち、暴力団の右翼化と統一を狙う児玉誉士夫の工作があつたことはよく知られている通りである。関東会の総領には「反共愛国・資本家体制実力防衛。大東亜思想がはつきりと打ち出されてあり、直後の四一七ストや安保斗争には「反対行動」に出ているのである。

ポリ公は暴力団の取締りを強化するとか宣伝しているが、真の目的は別にある。即ち、全国に分立する暴力団の抗争を封じ、日の丸右翼、つまり体制翼賛の一大政治勢力に変ぼう統一させ、下層労働者をその下に糾合し、金縛りにかけることである。二足わらじを伝統とし、体制支持のやくざの世界にからめとり、下層労働者に享樂的な生活を余儀なくさせることである。今年四月の国電暴動のように右翼行動隊はスト権もなく、零細企業で働く下層労働者の声を代弁するかのごとく行動し、基幹労働者の斗いに敵対している。今や右翼行動隊は分断政策と愚民化政策を要とする現在の自民党政治支配の不可欠な構成要素となつてゐる。

### ポリ公は弾圧の方法を変えた

暴力団による支配が暴動によつてくつがれられたあと、寄せ場ではこれまで暴力手配師が立つていたところに私服ポリ公が立ちニラミをきかすに至る。しかしポリ公は暴動が起きたあとでもこれまでと同じ弾圧の方法をとる訳ではなかつた。即ち、ポリ公は暴動の大衆に、機動隊の包囲、威圧的行進等によつて反北感と劣勢感を与えつつ、こり説得する。「君たちも善良な市民なんだろう。活動家にお

どらされ、こんな暴動まわぎをやれば、ますます世間の人々に信用されなくなるぞ。組合のように整然とした大人らしい行動をしたらどうだ」と。やつらは、一般市民と同格であるかのごとき幻想を吹き込み、暴動に立ち上らんとする労働者の心から未然に憎悪の牙をぬこうとするのだ。

他方、活動家に対しては私服部隊によつて労働者を刺激せず面割りをを行い、暴動の大衆との分断を計り、活動家をつけ回し、追いまわし、罪悪感を与え、活動家の行動の自由を奪つていかんとしてゐる。そして、さまざまなわなをかけ、ささいな業者、手配師との対立を傷害、恐喝等の事件にデッチ上げ、ムチャクチャな弾圧を活動家に集中してきている。十月上旬の二度に渡る十名もの大量逮捕をポリ公は、マスコミに内ゲバ事件とワンセットに報道させ学生生活動家の仕業であるかのようなデマを流し、その実最も労働者に信頼されている活動家をバクリ、長期拘留してゐるのである。

### 補足一

## タコ部屋と右翼と日本資本主義

タコ部屋は明治初期に日本資本主義が始まると同時に炭鉱や土木の飯場に発生して日本が帝国主義の段階に入る明治三〇年代には全国的にはびこつた。タコ部屋とは、外部との連絡を絶ち、暴力で労働を強制し、賃金はピンハネでほとんど本人に渡らず、ロクに飯もくえないような強制労働収容所である。当時、手配師は都市・農村

の失業者をだまし、オドシて飯場のボスに売りつけたのである。ボスは建設土木の下請業者がほとんどで、道具も飯場もたぬ全くの人夫出し業者であつた。

このタコ部屋―手配師制度は北海道の開発をはじめ、日本中の大土木工事にはかならずといつていいほどあつたし、また三井、三菱等財閥の鉱山にも広く用いられた。日本資本主義は女工哀史とタコ部屋によつて発達したといつても過言ではない。

大正五年に施行された工場法によつて「女工哀史」的な工場労働は一定度法的規制を受けるに至るが、タコ部屋で強制労働させられていた労働者には一切適用されなかつたのである。

日本帝国主義がその毒牙をむき出し、満州侵略を始めるとともに重工業化をき弱な経済基盤の上に推進するテコとして、資本家どもは人夫供給業者から大量の労働者を「組夫」として雇い入れる。昭和一八年には、八幡製鉄の一〇〇〇人を始め、三菱航空では四千人の組夫が導入されていたのである。

こうして、更に第二次大戦が激しくなると、国民徴用令が發布され、国家による国民の強制的な連行と労働がはじまり、一億総タコ部屋時代に入つていく。日本国内の総タコ部屋化を前提に帝国軍隊皇軍は朝鮮・中国・東南アジアに侵略し、朝鮮人・中国人を労働者として本土に強制連行し、各地の大土木工事・炭鉱・製鉄所・造船所・兵器ショウで苛酷な労働を強制した。皇軍とは、朝鮮人、中国人にとつてまさに手配師そのものであり、本土の一億総タコ部屋化が先が生み出したものであつた。

日本ファシストは戦争に負け、占領したアメリカは日本のファシズムの根を絶つたため民主化政策を遂行していつた。昭和二二年に施

行された職業安定法も日本のファシズムの基盤である右翼暴力団の資金源と組織を解体するという重要な政策的意図をおびていたのである。

G H Qは占領直後、人夫供給業者を三ヶ月以内に根絶せよと至上命令を出していた。二三年十二月までに解放された労働者は一七万人にのぼつたが、それは氷山の一角にすぎず、およそ二二〇万人の労働者が依然としてタコ部屋で強制労働させられていたのである。この中には建設土木関係だけでなく、港湾・製造業も含まれていた。八幡製鉄では工場内作業の多くを請負業者に依存しており、終戦後三千二百人の組夫がG H Qの命令により、直備となつたのである。

当初、職安法の実施を占領政策の中心にすえたG H Qであつたが、朝鮮戦争は事態を一変させ、アメリカは日本を極東の反革命的トリデとして経済的政治的に安定させることが問われ、日本の民主化という基本路線は放棄されてしまつた。

一九五二年、職業安定法施行規則が改悪され、その結果、人夫供給業者とタコ部屋は全面的に復活していつたのである。

八幡製鉄ではそれ以降戦斗化する臨時工を本工化によつてだきこむために、請負業者から大量の社外工を導入していく。北九州でタコ部屋として有名な納屋制度は、名を変え、「労働下宿」として、今もなお、昔同様炭鉱住宅の失業労働者を吸収し、暴力によつて整鉄所内の重労働に従事させ膨大な利益を得ている。こうして、建設、土木、港湾、鉄鋼等、基底産業を独占する資本家は国家権力と深く結びつきながら、労働者階級を分断し、より一層の搾取と生産力の飛躍的成長のために、人夫供給―請負制度をそ

の決定的なテコにしてきたことは明らかである。

これまで梶大介らは、余りにも左翼、一般社会に山谷を売りものにし、照明をあてすぎた結果、逆に山谷及び山谷労働者を特殊なものであるかのごとき印象を与え、その階級の普遍性を喪失させ、同情の対象に、あるいは告発の手段におとしめつてしまった。

釜ヶ崎、山谷そして高田馬場の日雇い労働者の斗いは今、これはめられた枠を超えんとしている。暴力手配師追放、悪質業者追放、やられたらやり返せ!!! のスローガンは、前述したごとく、明治以降日本資本主義の勃興とともに農村を追われ、手配師によつて都市の工場へ、あるいは全国のタコ部屋に売られ、親分子分の伝統的な精神的鉄鎖と暴力によつて労働を強制され、やられつづけていつた下層の労働者の運命と怨みをその背景陰謀のミロマガツのあり、その斗いは歴史的必然性と道理をもつた斗いなのである。

## 補足二

# 山口組と港労働者

幡随院長兵衛以来、ヤクザと下層労働者(土木人夫、港湾人夫)の縁は深い。切つても切れない関係にある。それはヤクザの組織的再生産の階級の基盤が非市民的・被差別貧困階層、下層労働者にあるということから当然であるが、ここで問題にされなければならぬのは、資本主義社会の諸階級の最下層に位置づけられ、それ故に現体制そのものを根底からくつがえすことなく自らを解放しえな

い無産大衆を組織しているのが、いかなる左翼でもなく、現体制の枠内での経済的利益追求集団たるヤクザであるということ、このことである。

幡随院長兵衛が人夫口入れ稼業に依拠し、賃金の上前をハネ、人夫相手のバクチのテラ銭をとつて資金源としていたと同様に、山口組初代親分、山口春吉も人夫供給業として山口組の看板をあげた。

山口春吉は、明治のなかごろ、淡路島の漁師をやめ、神戸に流れ、生田区栄町の海運業・倉橋組の労働者となる。

当時、港湾労働者は、ゴンゾウ部屋という飯場・寄せ場に寝起きし、そこから現場に供給されていた。

山口春吉は、大正四年頃、このゴンゾウ部屋に囲い込んでいた港湾労働者四、五〇名を集めて山口組を結成する。

山口組が神戸港の制圧にのり出すのは、戦後、三代目田岡の時代になつてからである。以下、その経緯を簡単に記しておく。

一九四八年六月、連合軍司令部経済科学局民間運輸課は、コンフレンス・メモを出し、戦時中港湾運送事業を運営していた統制会社を解体し、港湾労働の中間取手を排除する目的で、元請け業者のみを認めて、第一次下請け、第二次下請けを禁止した。

しかし、統制会社が解体され、元請会社は復活したが、元請けは従来通り、港湾労働者の手配、管理は下請けにまかせ、下請けは元請けの「作業部」という看板の下で生き続けた。

一九四九年四月一日、神戸港船内荷役の一五業者が集まり、親睦団体「港洞会」が結成され、田岡はその会長におさまり、神戸港制圧の第一歩をふみだす。

一九五〇年六月に朝鮮戦争が勃発、朝鮮半島における米軍への補

給基地となつた神戸港は、昼夜兼用の荷役に追われ、手配師は横行し、アンコの需要は増大する。

一九五一年五月、実状にみあわなくなつたコンフレンス・メモは、資本の要求の強まりを得て破棄され、運輸省は新らしく港湾運送事業法を制定し、下請け制度を法的に、公然と復活させる。

同年中に設立された山口組直系の船内荷役業者は舎弟・白石幸吉の上乗運輸をはじめとして、藤海運、吉川運輸、商栄運輸、高砂運輸などがある。

一九五二年一月一七日、田岡は港洞会を改組して港湾荷役協議会を設立する。

同年中、山口組系昌栄運輸、田岡自身の甲陽運輸を設立、その社長となる。

一九五四年九月には住井運輸、五五年二月には安原運輸を設立。

一九五六年、神戸港における山口組系荷役会社は十二社に達し、田岡は、横浜の港の顔役、笹田照一、鶴岡政治郎、藤木幸太郎とはかり、港湾荷役協議会を解散し、全国的な規模で第二次下請けが結集した「全国港湾荷役振興協会」(全港振)を設立。会長は藤木、田岡は副会長兼神戸支部長。田岡の復心の岡精義は常任理事となる。

同年春、第二次下請けのアンコに依拠し、山口組系企業の単一組合十五、四百四十人を母体に、「神港労連」が結成され、山口組系上乗運輸の社長、白石幸吉の子分、大利幾造が選ばれる。

神戸港には総評系の「全港湾労組神戸支部」があつたが、全港湾は第一次下請けのアンコに依拠し、組織率は二〇〇%程度であつた。

「神港労連」は、第二次下請けの第一次下請けへの昇格という田岡の意図にそい、第二次下請け業者の別動隊として活躍し、総評系

「全港湾神戸支部」を殿サマ組合として攻撃する。

第一次下請けは、全港湾神戸支部を含めた総評系「神戸港湾共闘会議」の労働攻勢と、第二次下請け労資に挟撃され、アンコを確保できず、経営不振に陥り、衰退の一途をたどる。元請けは経営能力(人夫供給能力)のなくなつた一次を無視し、二次業者に直接荷役を請負わす。

一九五九年、運輸省は港湾運送事業法を改正し、一次、二次の區別を全面的に廃止する。

一九六四年、神戸港でデンマーク貨物船エルセ・マークス号で、荷役作業中の労働者が船室をのぞいたといつて船員から殴打されたこと、さらにギリシヤ貨物船チオス号で作業中の労働者の投げたロープが当たつたと、船員がその労働者を殴つたことに対して、田岡は、即時荷役停止を命令し、両船に謝罪を要求、「安全荷役、人権尊重を確約すること、船内のトイレの使用、労働者の休けい場所の提供」という要求書をつきつけ、これをのます。

同年六月、全港振神戸支部、休日就労割増金を獲得。

一九六五年、全港振神戸支部、春斗協力金を獲得。

一九六六年、神港労連、ストライキ(以後五波)

一九六九年、神港労連、合理化反対でストライキ。

(資料一 溝口敦「血と抗争」。飯干一「山口組三代目」)

# 寄せ場反乱は拡大する

流動的下層労働者の寄せ場——ここにおいてこそ、日本帝国主義の本質は、いかになく発揮され、労働者階級総体の普遍的運命が赤裸々な形で現象している。

寄せ場に「市民法」は通用しない。むき出しの暴力支配と暴力的搾取、収奪——資本と賃労働との対立が市民社会的幻想（平和と民主主義）をかぎり捨てて、ポリ公、暴力団手配師対労働者の肉弾戦として現象する空間、それ故にそこで労働者が生きがためには必然的に自らの肉体を「暴力」として階級形成し、武装せざるを得ないのだ。

反革命武装勢力以テ、公・暴力団・手配師に異常的テ、リソチ体制。タコ部屋への「労働者狩り」。精神病院への「アル中狩り」。ピンハネ、賃金末払、強制労働。年間数百人にも及ぶ行路病死者、すなわち使い捨て労働力の墓場。

「国内植民地」とは、山谷、釜ヶ崎に代表される寄せ場にこそふさわしい。仕事そのものも奪われ、のたれ死にを強制される寄せ場の冬の季節こそふさわしい。

仏帝国主義は旧植民地アルジェリア労働者をもつて国内植民地を形成している。

西独帝国主義はアラブ・パレスチナ難民労働者をもつて国内植民地を形成している。

英帝国主義はインド人等旧植民地労働者をもつて国内植民地を形成している。

米帝国主義は、黒人、ブエルトリコ人、チカーノ労働者をもつて国内植民地を形成している。

日本帝国主義は朝鮮人を鮮人労働者として徴用・強制連行し、中国人を華人労働者として俘虜、強制連行し、タコ部屋にぶち込み、炭鉱・土木建築で酷使し、文字ど通りの国内植民地を形成した。国外からの労働力供給の道を閉ざれた戦後は、農村を解体することによつて大量の流動的下層労働者（労働者）を創出し、山谷・釜ヶ崎という国内植民地を形成してきたのだ。

日本の「平和と繁栄」はベトナム人民の犠牲の上に築かれてきたように、また同時に国内植民地の戦争状態の上に築かれてきた。「市民社会」が平和と繁栄に酔いどれになるとき、山谷・釜ヶ崎では飢えと寒さにうちふるえ、怨みつらみをかみしめて、いつた何人の仲間たちが死んでいつたであろう。いや殺されていつたであろう。

現場ですこしでも文句をつけようものなら、よつてたかつて極道どもに袋叩きにあい、半殺しの目にあい、あるいはコンクリづめにされて闇から闇に葬られてきた。

だが、寄生虫どもが甘い汁を吸っている時代はいつまでも続きは

しないのだ。

下層労働者は立ち上がる。積年の怨みを胸に秘めて、憎悪を怒りの炎と燃やし、「やられたらやりかえせ!!」今こそやられつづけてきた怨みを晴らす時がきたのだ。白豚どものどてつ腹に怨念でねりかためた弾丸をぶち込む時が。

「やられたらやり返せ!!」このスローガンのもと、現場斗争は激発し、寄せ場叛乱は拡大する。もはや手配師どもがデカイ面をしてふんぞり返っている時代は終つたのだ。下層労働者は団結し、斗争は前進する。

山谷・釜ヶ崎労働者はやり返す

インディアンはやり返す

ヤング・ローズ党はやり返す

ブラック・パンサーはやり返す

モザンビーク解放戦線はやり返す

ベトナム人民はやり返す

虐殺の時代を終らせ、殺り続けてきた支配者どもを打ち倒すために、全世界の被抑圧人民はやり返す

暴動有理・革命無罪

やられたらやり返せ





新井技建を迫害する会  
山形県馬場斗争委員会  
TEL. 574-6938

# 新井技建よ、警察からどんな作戦をさがした？!

7月下旬から姿を消していた新井技建が再び姿を現わした。  
馬場の仲間たち、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
新井技建は馬場から追放することに反対するものがないか？  
馬場の仲間たち、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
新井技建は馬場から追放することに反対するものがないか？  
馬場の仲間たち、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
新井技建は馬場から追放することに反対するものがないか？

# 共立施工は貸金未払い分 65万円をいまずぐ支払え!

## 新井技建は用心棒づらしてミヤミヤりであるな!

はたらく仲間たち、馬場から共立施工のハンパ(仕事)を奪った。新井技建は用心棒づらしてミヤミヤりであるな!  
共立の社長は、仲間たちは新井技建の手配師も用心棒兼共立合人にして、8名の仲間を「ミヤミヤりしろ」と言っているのだ。  
共立は新井の暴力をバックにして、馬場の仲間をミヤミヤりしろ。

# 新井にヤラタ怒も 団結してやりかえそう!

新井技建を迫害する会、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
新井技建を迫害する会、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
新井技建を迫害する会、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
新井技建を迫害する会、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？

## 仲間がなぐられたら放っておきな!

仲間がなぐられたら放っておきな! 最近、この新井の手配師に労働者が、本気でミヤミヤりされた。この時、なぐられたのは一人であつた。かくこの事は、馬場のすべての労働者が、よく知つた。仲間はなぐられては、助けを求めた。仲間がなぐられたら放っておきな!  
新井技建は暴力団だ。暴力団とやるには、二人でもや。こりう人間、力を合わせてやるのだ。すべての馬場の労働者の力を合わせてやる。新井技建を迫害する会、新井技建を迫害する会に反対するものがないか？  
おいてできることあるか、山谷、釜崎の労働者は、馬場の労働者の兄弟であり、仲間である。こりうおれは、ミヤミヤりか、ミヤミヤり味だ。こりうおれは、ミヤミヤり味だ。  
団結して、ともに新井技建をたぶさ出そう! 一九七三、七二八 現場斗争委員会

# 馬場から 新井が追放

止の仲間たち。先月20日馬場で新井が暴行されたことは知っている。その後も馬場の仲間たちが、新井を追放しようとした。新井は日本刀を振り回して、仲間たちを襲った。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

## 「泥棒」となぐり殺す

ひどい暴力飯場 四人を逮捕

廿四日、東山区の暴力飯場「ロマン」で、仲間たちが新井を追放しようとした。新井は仲間たちを襲った。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

寄せ場に根をほり、悪業の限りを尽くす。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

## 俺たちも 新井に復しゅうを誓おう

山の新会ニース。新井はマの仲間たちを襲った。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

## 2名釈放さる

馬場の仲間たちが、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

# 仲間に おられる

# 釜崎夏祭 川名不当

山谷の仲間たち。夏祭りに参加した。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

釜崎の仲間たち。夏祭りに参加した。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

山谷の仲間たち。夏祭りに参加した。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

釜崎の仲間たち。夏祭りに参加した。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

山谷の仲間たち。夏祭りに参加した。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

釜崎の仲間たち。夏祭りに参加した。仲間たちは、新井を追放した。新井は追放された。仲間たちは、新井を追放した。

**松井建設**

**鉄の反皿でメッタタキ**

**金も払わず 追い出す!**

横濱市から厚木、松井建設の飯場に行ったAさん、八月六日、車中のそばで小便をしただけで、手配師木崎ら女らしに鉄の反皿でメッタ打ちにあつた。その上、10日が廿日までの間は、金ももらえず追いつけられしめた。Aさん、ホリ公に泣きついたが、「田かたっているからメッタ打ちが、山谷の山の名に相談した。

①山の仲間がAさんの話に感動し、松井本社にある静園まで20名がAさんと一緒に追いつけ行くことになり、追いつけられた。

**大親興業**

**13日働らがき取ったの1万円!**

昨年10月なみだ橋に立っている義人党の手配師にパンをかけたKさん。三五千円・雑工・10日働、神奈川の現場。ところが大親のオヤジ、10日すぎても勘定をせず、13日働かされたあげく、受けとったのはなんと1万円。三五千×13日=四万五千円。飯代をなくしてか、あまりにひどすぎる。Kさんは飯場の仲間と大親に訴えて、働いた分だけ払えと要求したが、オヤジは居直してKさんを追い返していた。

ちなみに大親のオヤジは、前科8犯、義人党の幹部で、大親興業なる人夫出心をテッチあげ、昨年の暮、ひと月の間に1千万円にのぼるピンハネを行ない、職安法違反、強行働、暴行働、電打などでパワられている。

**叩き出すぞ!**  
**ケタオチ暴力飯場**

NO.1  
73.9.9

◎仲間たち!  
馬場から叩き出された新井がまたホリに守られ寄せ場に出た。山谷でも夜の出張の手配師(林ら)が新井の手配師と組んでつばつている。やっつは、ハシにも構にもからぬ、金のホリだ。労働者をなぐつておいて、おまんこおまんこ、いつまでもおまんこやがる。やっつら夕飯手配師にも、おまんこ知らせてやろ!  
◎半タコ手配師ども。  
おまんこ。労働者にいつ構打されても知らないぞ!

悪債業者追放、暴力手配師追放  
**現斗委**

**新井建設**

**ビールビンで頭をかち割る!**

昨年の十一月下旬、山谷でアづれたIさん、馬場の寄せ場から新井の飯場に行く。満期になってケタオチ三二〇〇円のデズアが二〇〇円ぶんしがよこさくので、文句をいいたら袋叩きにあい、ビールビンで殴られ、8ハリもぬぐ大けがをした。やっつはいつも「いろは」のむかいパン屋の角にいた新井の手配師「アズちゃん」だ! Iさんは、10日働入れた後も頭がまわられるように痛く、仕事につけないうまま、正月あけまで玉姫でまひカンをしていた、という。

新井建設は2年前の12月10日、練馬の飯場で、トココしようとし、労働者を極道の準備4人がかりで殴り殺しており、関東の仲間中にその悪名が伝わっていた悪質暴力業者。そして、おとほ今年7月20日に馬場の新井が労働者の怒りの襲撃にあつた。







# 七三年山谷「冬の陣」

## 越年闘争への呼びかけ

### 現場闘争委員会

1 寄せ場下層労働者の冬とは何か？

山谷の労働者にとって「冬」という季節は特別の意味をもっている。寄せ場の「冬」は自然がつくり出すのではない。社会制度がつくり出す。日本資本主義は山谷、寄せ場という大きな矛盾を生み出した。そして、山谷―寄せ場の全矛盾が「冬」という季節に集中して暴露され、その本来の姿をあらわにする。

資本制社会では、常に過剰な労働力を生み出しながら発展し、又発展するためには過剰な労働力を必要とする。資本家どもは、いつでもすきを時に安く使え、用がすんだら一銭の保障もせず放り出せる労働者を大量に必要とする。その結果、食えなくなった労働者がどうなるかと構うことはない。資本主義は毎日、毎時間いたる所で「自由な」―あくまでも資本家にとっての―労働力を生み出しているからである。「代わりはいくらでもうまれてくる。労働力としての価値がなくなったヤツはむしろ、早いところくたばってくれた方がいい。」これが労働者の生き血を吸って肥え太っているヤツの心からの願いなのだ。この願いをかえらるるためにつくられたのが都市では日雇い労働という制度であり、全国の寄せ場である。農村では農業の破壊と土地収奪を基礎にした兼業農家である。毎年、冬にな

ると農業だけでは食っていけない貧農。農業労働者が百万人以上も都市におしよせてくる。出稼ぎの半数以上は、土木、建築業の飯場へ入る。都市の日雇い労働者はそのしわ寄せをもるにくだらうのである。山谷労働者にとって「冬」とは「アブレ」の季節である。

山谷労働者の直接の敵は、手配師・暴力団であり、下請業者である。元請―下請という建築業の制度に寄生している手配師はデズラをピンハネし、暴力でもって労働者をこき使っている。文句をいう労働者は殴りとばし、ブチ殺す。ヤツらは冬になれば、いよいよ露骨にその正体をあらわす。仕事が少なくなり、それにつけてデズラは下げられ、条件違反は益々ふえ、タコ・半タコの飯場へ放りこむ。労働者は「ともかく生きていくために」それでも飯場へ流れていく。特にウデのいい労働者や、夏の間手配師にゴマをスリ、おとなしく働いた者だけが比較的いい飯場へ入る事ができる。

山谷では、日一日と寒くなるにつれて、日一日と仕事が増えていく。世の中が、ポノナス、クリスマス、正月だとかかれていく間に山谷は暗く沈みこみ、命の危険にさらされ、遂に年末年始には完全に仕事が無くなってしまふ。働きたくとも働けず、何の生活保障もなく路頭に迷う。実に百人以上の労働者が、毎年行路病死（行きた

おれ）し、多くの労働者が、ドヤ代もメシ代もなく厳しい寒さの中をアオカンで過ごす。資本家と労働者という二つの階級の状態と運命が「冬」という時期にくっきりと浮かびあがり、二大階級の矛盾がケイレンし、火花をちらす。

階級闘争は冬の一時金闘争までで、正月は「休戦」して国民全部でお祝いする時だと思っている労働者諸君！ それは幻想であり、ウソッパチであり、ブルジョアの考え方である。もしその事に気がつかないとしたら、諸君は無意識のうちに自分を強盗の手先におとし込んでいるのである。山谷から見ると、資本家と労働者が対立しているのではなく、市民社会と非市民社会が対立しているかのように見える。

「革新都政」は業者。資本家の手先である。一部の労働者にわずかばかりの一時金（デズラ二日分）を出す他には労働者のためになることは何もしない。正月には、来年も又収奪できそうを労働者だけを収容所を称する監獄に収用し、ブタのエサのようなものを恩きせがましく与え、「おとなしくこき使われなさい。」といて説教をたれる。病院は、病人や老人をたらい回しし、ろくな手当てもせず放り出す。酒をのんだといつては精神病院へ収容する。病院も又、資本家の死刑執行に協力しているのだ。これらの矛盾にドヤ代の値上げが追いつけをかける。

山谷―寄せ場労働者は、ひと冬越すたびに確実に死と隣人への坂道を目に見えてこぼれ落ちていく。「寄せ場の冬」とは何か？それは、資本家にとってものは使ひものにならないほど収奪しつくした労働者を合法的に墓場人送り込むための巧みな制度である。山谷は奴隷市場であり、賭殺場である。

冬とは季節ではなく、資本主義の制度である。冬の矛盾とは資本主義の矛盾そのものである。

2 労働者の広汎な団結で「冬」資本の攻撃に反撃しよう！  
去年は、多くの労働者の団結と広範囲な人々とりわけ三里塚青年行動隊の協力で連帯で年末から年始にかけて越年闘争を闘かい抜いた。十二月三〇日から一月五日まで、玉姫公園にテント村を設営し、たき出し、医療相談などを行い、「生きてヤツらにやり返せ」「仲間の問題は仲間うちで解決しよう」をスローガンに、越年闘争は予想以上の成功ともりあがり勝ちをとった。

十二月三〇日の労働センター焼き打ち、城北福祉センターとマノモス交番への大衆的抗議行動の反乱的傾向―昨年の越年闘争中にボツ発したこれらの行動は、寄せ場労働者が確実に過去いく度か行われてきたブルジョア的救済事業の対象となることを拒否し、そのギマン性を批判し、はっきりとブルジョアの救済事業（ブルジョア政治）と労働者による越年闘争を区別し、かつ、批判にとどまらず打倒へと転化しうることを示した。越年闘争は労働者自身による政治を作り出したのである。それ故、越年闘争はそれ自体、防衛的な形態をもちつつも、ポリ公は「たき出しのメシを食うな！テントに泊るな」と猛烈に反対し、越年闘争が労働者自身の手によって担われることをあらゆる手を使って妨害せんとするのである。

越年闘争は防衛的な形態をとりつつも、他のどの闘いにもまして労働者にとってさし迫ったギリギリの闘いである。それ故、越年闘争は全山谷労働者の広範囲で深い要求にねざした道理ある闘いなのである。

現闘委は過去一年有余の闘いの成果をより広範な労働者と共に守り、越年闘争を闘かっけいきたいと思う。寄せ場の矛盾を徹底して暴露し、悪質業者・暴力手配師追放の闘いを発展させ、山谷へ寄せ場労働者のより強固な団結を勝ちとっけいきたいと思う。

生きてヤツらにやり返せ!!  
仲間うちの団結で越年闘争をやり抜こう!!  
越年闘争に支援を!!  
自己の抑圧された情況そのものを敵を打倒する武器に転化せよ!!

# 俺たちのいのちは俺たち で守るろう

## 現闘委医療班

現闘委医療班は昨年の越年闘争での医療班活動を引き継ぎ、越年闘争中、死亡した労働者の人民葬とアヤマ病院で決起した三被告に連帯して山谷アヤマ病院糾弾集会を経て本年六月に結成された。

医療班の目的と任務はやられ続けてきた者たちが、階級的憎悪にもとづいてやり返すための前提条件を作り出すことである。奴ら(手配師、ポリ公、行政当局、病院等)による支配と抑圧の現実の中で生命を維持することすら困難(とくに冬場)である労働者が、いかに生き抜くのか、この課題を労働者と共に追求して行くことが医療班の任務である。我々は労働者がこのことを仲間うちの問題としてとらえ、労働者自身の力で解決していく以外に道はないと考える。そこでの団結の基準は弱者の強い団結である。

山谷労働者は奴らにやられ続けながらも仲間うちの団結で生き抜き、みごとに、九・一一暴動で奴らにやり返したのである。

行政当局の福祉政策について  
行政当局にとって、山谷とは「最初から生活困窮者として流入した者、あるいは病気による失業、高年令による失業者等の経済的破綻者の迷滞の場所」であり、「都内の代表的な不良環境地区」である。そこで、彼らの対策はどうこの「厄介者」を厄介払いするかということになる。それを我々の言葉でいうと、「常用化政策と保安処分」ということになる。

常用化政策とは日雇い労働が困窮と墮落の原因だからその様な、いい加減な仕事をやめて、もっと「まっとう」な職業につかせ、「更生」させるという政策である。

保安処分とは常用化政策に従わない者、当てはまらない者(労働力商品としての価値のない者)を、例えば、アル中患者を悪徳精神

病院へ、老人を老人ホームへ、身障者を施設へ、困窮者を収容施設へ(上野神吉寮等)へ、病人をカタオチ病院へ、「犯罪者」を刑務所へ、身よりのない者を無縁仏としてあの世へと送る分断と隔離の政策である。

このみへの政策は寄せ場は寄せ場資本(建設、港湾、運輸等)の要請で形成されている側面を無視して、どうして、この不良環境地区を解体するかと、社民的発想に基づいて実現不可能な都市近代化政策を遂行しているといえよう。また、この政策は山谷労働者にとって寄せ場労働者としての存在そのものを否定し、それに反抗するものは保安処分するという福祉という善意に飾られた労働者敵視政策である。

### アル中患者をめぐる問題について

アル中患者は労働力商品としての価値を失った社会的反抗者として、マンモス交番が泥酔者保護と称して保護し、反抗的な者かどりをかを選別して、下谷精神衛生センターに送り、そこで鑑別して、悪徳精神病院に送り込むのである。山谷労働者の措置入院者数は年間六〇余件、区長の同意入院(実質的には措置入院と同じ)は年間一、二〇〇件である。山谷においては保安処分の新設を待たずして、以前から保安処分が実施されていたのである。

山谷のアル中患者の数は不明だが、アル中予備軍も含めるとおびただしい数に登ると思われる。何故かアル中患者が多いのか。それには根拠と道理がある。暴力手配師による暴力支配、悪質業者の苛酷なカタオチ労働、マンモスの弾圧とリンチ、劣悪な生活環境そして展望のない明日、この非人間的な支配と抑圧の現実の中で一

体、誰が平然と生きられようか!!労働者は悲惨な抑圧状況を個人的に突破しようと試みて敗北したり、あるいは個人の責任において引き受けようと悩んだ結果としてアルコールにのめり込んでいくのである。

一般的に現状打破への暴力及び反抗には第一には外ゲバ(暴動等)として、第二には内ゲバ(仲間殺し等)として、第三には自傷、自虐としてある。アル中は第三の暴力及び反抗であるが、彼らは第一の暴力及び反抗に変化することがある。それでは彼等はいかにして変化を遂げるのであろうか。

アル中は精神病院に入院させられることでは決して治るものではない。確かにアル中の病状は入院すれば一時的に取れるとしても、退院後、下層社会での抑圧の現実の中で、またしてもアル中にさせられ、病院へとふたたび送り込まれる。結局のところこの循環の繰り返しにしか過ぎないのである。つまり、精神病院は一時的に厄介者を隔離収容する所にしか過ぎないのである。もし、入院して完全に治ったとすれば労働者としての反抗心を骨抜きにされ、市民社会秩序に屈服させられたことを意味するだろう。アル中患者の根本的解放はアル中にならざるをえなくさせた現実の抑圧状況そのものを変革し、その闘いの中で、自己の支配階級に屈服させられてきた思想を革命的思想へと自己改造する闘いを通じて解放されるのではないだろうか。

アヤマ病院で決起した患者は、患者を食いものにして肥え太っていく病院の悪どい患者支配に対する復讐戦を挑んだのであった。山谷の仲間であるこの患者は山谷労働者の模範である。我々はアル中にさせられ、路上において、あるいは精神病院において殺られて

きた労働者の怨念を胸に秘めて、現在、数多くの精神病院にぶち込まれ、抵抗している無数の労働者の突出した部分の闘いとしてアヤマ病院闘争をとらえた。医療班は、彼らの闘いを山谷労働者に知らせ、共に闘うことを訴えてきた。そしてアヤマ病院をはじめとする精神病院の実態調査をし、精神病院での抵抗闘争を呼びかけて来た。また、病院に収容されている仲間の奪還を幾度か試みて来た。

### 医療班の今後の方向性について

これからの医療班の方向性は労働者自身の医療を!!ということになるだろう。我々はこれまでの活動の中でしばしば活動家だけの闘いに落ち入り、受負い主義的傾向を生み出した。これらの活動を厳しく再点検し、大衆の中に根ざした医療活動を開始していくだろう。労働者自身が数人の仲間を単位として形成している労働細胞において医療や福祉をめぐる問題で相互援助を行いながら苛酷な支配と抑圧から、自己防衛し戦っている姿に我々は注目し、この労働細胞に接近し、彼等のかかえている問題を共に取り組んでいかなければならない。そして我々は医療、福祉をめぐる階級闘争への彼等の参加を契機とし、彼等と再結合し、階級的団結へと運動の質的飛躍を遂げていく闘いを開始するだろう。

医療班で現在、行われているハリ治療の活動も、労働細胞と接触する武器として、またハリ治療を普及させ、労働者が誰でも行いうる医療として労働者自身の医療を確立していく闘いとして行われていくだろう。

今年も、やって来た生存の危機としての冬場を仲間うちの団結をうち固め、闘争エネルギーを貯え、生きて生きて生き抜いて、必ず

# 冬に向け、更なる闘いと支援を!

## 山谷救援会

「山谷労働者に対する、日常的な権力による「弾圧」体制  
山谷労働者の「闘い」を、組織による意識的な運動に限定してしまふならば、山谷に於ける異常な逮捕件数の多さ、浅草警察署在監約六十余名中三分の二が山谷労働者である事実に関し誤った解釈しか出来ないであろう。

自らの存在を主張し表現すること自体が体制との熾烈な闘いぬきにはありえない存在、それが最も尖鋭な形でなされた、過去十年間の暴動は、権力の強大な組織暴力によって圧殺され、個別の形で、正確に敵を狙い或いは屈折して仲間うちに向けられた時は「犯罪」として処分され、全ゆるる表現手段を奪われ自らの肉体そのものに向けられた時は「アル中」として闘り去られ続けてきたのである。

「T氏。労働者に高圧的な態度をとった、福祉センター(旧館)職員とのささいないざこざを、暴力行為「常習」として起訴される。地裁で懲役五ヶ月の判決。

検事論告「被告人らは素行、生活態度不良、行為は常習という、しつようにして悪質。かかる被告人らの在り方は山谷騒動の原凶ともなる社会的危険性を孕むものである。犯行の重大性に鑑

み懲役六月を求刑する。」  
裁判官 「被告人何か言うことはないか。」  
T氏 「Fさんの対応如何では起らなかつた事件です。もう二度とあんな所へは行きません。」

構成要件的評価によって一旦抽象化され具体的な背景を全て除去された事実を公判廷で再構成するのは、支配者側の論理による以外にない。T氏に対する攻撃は、山谷に対する偏見(なくそうと思えばなくせるもの)などではなく、まさにブルジョア法体系そのものなのである。

昭和三五年の暴動以降、警察権力は労働センター等地元行政機関と密に連絡をとってこれらを労働者監視の先兵と化し、地域内パトロールを強化し(T氏はたまたま通りかかったパトカーに連行されたそうだ)背後に、留置場・簡裁・地裁・刑務所ルート及び留置場・泥酔者保護施設・精神病院ルートを備えた、地域ファシズム体制を確立してきた。その中で様々の「闘い」が、他との結合をはばまれたまま、国家権力のシマを荒したオトシマエに外ならない暗黒裁判により、或いは精神衛生法による強制的な精神病院送り||事実上

の保安処分により、圧殺され続けてきたのである。

アヤメ病院に対する早川雄朗氏、浅田正春氏、喜多義雄氏らの闘いは、単に悪徳精神病院に対する闘いではなく、かかる治安弾圧的暴力支配に対する突出した反撃の闘いに外ならない。

一人で「闘って個別に葬り去られようとしている仲間と、先ず連絡をつけ、事実を調査し、支援から更に仲間としての共同の闘いを追及していく事、現実に行うことが山谷で要請されているし、またそれは我々の闘いが山谷における無数のトク名集団、個人の「闘い」に如何に学び、それを組織的闘いとして表現しうるかという事と密接に関係するであろう。

二、山谷労働者の新たな闘いに対する組織弾圧攻撃

のべ七十名以上の逮捕者を出した、七二年秋以降の激烈な階級攻防戦は、より広帆・強固な労働者の結集と、それに対する敵側の結束、弾圧体制の強化の中で、冬に向け更に厳しい局面をむかえている。順を追ってふり返ってみよう。

※現場闘争Ⅱ労働者収奪の根幹に向けた実力闘争の開始

72年9月対中村荷役、10月対栗田工業、11月大広・向井組に対する

逆闘闘争

◎権力、労働争議に介入しピストルをぬく

11・13 大広建設に百名の労働者決起。三名現行犯逮捕（一名起訴）

◎業者に対する要求を恐カツにデッチ上げ

11・16、25 栗田工業に対する恐カツ容疑で現場に居もしない者を含め四名逮捕

◎マスコミによるキャンペーン

事後赤軍キャンペーンの為一名逮捕

◎ヤー公を野放しにし、けしこける

12・2 暴力手配師青木、吉村らの襲撃との対決、二名逮捕  
無差別現行犯逮捕・マスコミによるキャンペーン・業者を指導したレコミをさせる。権力の先兵としてヤー公の登場、これらは規模、形の違いはあれ以後常にくり返されるパターンである。

※権力は、労働者の大衆的決起の前に後退をよぎなくされる

12・3 暴力手配師追放大反乱。現行犯逮捕なし、

◎報復弾圧は現闘委に集中

12・4 12・2の件でデッチ上げ令状逮捕及び公妨現行犯で計十数名

逮捕（公妨で二名起訴）

12・5、6 新聞で「山谷の赤軍」キャンペーン、前述の一名、三日

間勾留

12・8 悪質業者連合「八日会」を結成

◎労働センターがチンケなタレコミ

権力は何かと二・三に結びつ様としてセンターに被害届を出させ4日の逮捕者四名を「威力業務妨害」で再逮捕・起訴

12・16、19 二名威妨で令状逮捕（二名とも起訴）

12・16 支援の釜共闘メンバー一名暴行で逮捕

※権力は再び、果敢な労働者の攻撃の前に後手をとった

12・30 労働センター焼打、一階を全焼

12・30 1・5 玉姫公園で越年闘争

1・4 センター健康相談室が労働者をマンモスに売り渡した事に怒った労働者千名、マンモス交番を囲む。

◎悪質な「放火」デッチ上げ

1・7 12・30の「放火」デッチ上げで三名、現行犯公妨で四名逮捕  
(建造物侵入で三名、公妨で一名起訴)

2・2 「放火」更に一名逮捕。マスコミは「放火男」キャンペーン  
(侵入で起訴)

※権力は現闘委の大量逮捕と朝のセンター常駐体制により冬場をのりきる。

3・28 センター周辺の手配師追及で三名逮捕（一名起訴）事後三名

逮捕

3・29 組合の手配師追及闘争。私服常駐体制の中で現行犯ばかり九

名逮捕（二名起訴）

4・9 組合のデモ、右翼暴力団に襲撃される

※敵の布陣は整えられており、春先、体制の整わぬ現闘委に代って組合を中心とする手配師追及の闘いは警察権力と結託したヤー公の襲撃により、つぶされる。

「暑さ寒さも彼岸まで」といわれる様に一年中では最も好い季節になり山の仲間達も仕事がいやしくなりました。いつも物心両面にわたり御支援頂き心から感謝致しております。「には山の仲間達が居るのだ」と思いますと一年や二年の勾留生活も平気で元気です。山では相変わらず暴力手配師とポリ公の奴らがグルになっており獄中で憤りを憶えております。こんなウジ虫の様な奴らをのさばらせては山の労働者の汚券にかかります。勿論山の仲間の団結力によって闘えばこんなウジ虫共なんか吹っ飛んでしまう事は明白です。山の仲間達の合い言葉「やられたら、やりかえせ!!」現闘委や仲間達の御健闘を祈ります。私も頑張ります。では身体に気をつけて下さい。

山の仲間達へ

早川雄朗

権力の強力な組織攻撃とヤー公突撃隊の結集を突破する、闘いの正しい方針と陣型がすでに必要とされていた。

7・19 寿町労働者の反乱

7・20 高田馬場労働者の決起、新井技建造放闘争の開始。二名逮捕

※新たな闘いは大衆的な反乱に発展した。

9・11、12 山谷労働者大反乱。十三名現行犯逮捕（二名起訴）

◎権力が「国営暴力団」として前面に登場。9・11、12以降ヤー公突撃隊の表立った動きはなくなり、代わって権力が現場との連絡を強化し労働争議を片端から暴力事件にデッチ上げようとする。

10・5 新栄電設の現場で労働条件違反、血迷ったオヤジのニセ証言

で五名逮捕。

10・11 道で白石工業と交渉中の現闘委に介入し、追い払われた暴力

手配師のタレコミにより、五名逮捕。10・25 10・5の一名再

逮捕（五名起訴）

地裁一四部裁判官小出は、以上の事件が明らかに捜査の意味なく勾留を目的とするデッチ上げ逮捕であることに目をつむり、証拠い

ん滅、逃亡の可能性を標ぼうして譲らなかつた。

※山谷の闘いに支援を!!

兄弟諸君!!この間の連続的な闘いによって切開かれた地平は、権

力の如何なる攻撃の前にも絶対に守り抜き、更にその闘いを全ての

寄場、全ての戦線に波及せしめねばならない。「冬」という資本総

体からの切捨て攻撃をひかえ、労働者側からの自衛と反撃の為の決

起とそれをめぐる権力との攻防は、更に激烈をきわめるだろう。

全ての諸君の物心両面にわたる、全ゆる形での支援を、切にお願

いする。

